

## 1. 調査目的

卒業後の就職実態を把握しつつ、在学中の教育プログラムで伸ばした能力、就職活動の軌跡等を調査し、今後の学修支援、キャリア支援の充実・改善を図る。特に学生の成長した背景や内定獲得の要因等を深く探るため、インタビュー調査を行う。

## 2. 対象

2022年度の学部卒業生（社会人1年目）

## 3. 調査方法

個別インタビュー（構造化面接） Zoomにて実施（30分）

## 4. 調査時期

2024年3月～4月

## 5. 調査結果

多様な学科・進路先の卒業生に対しメールにて連絡を取ったうち、対応可能と回答があった11名にインタビューを行った。

### <対象者>

	卒業した学科	勤務先・業種
1	日本文学文化学科	住宅
2	法律学科	コンサルタント
3	経済学科	外食
4	経営学科	インターネット
5	データサイエンス学科	自動車
6	データサイエンス学科	インターネット広告
7	データサイエンス学科	コンサルタント
8	日本語コミュニケーション学科	独立行政法人
9	法律学科	地方公務員
10	教育学科	教育
11	幼児教育学科	地方公務員

## サマリー

インタビュー内容から、「成長要因」「進路選択・就職活動」「大学への満足度要因」「大学への要望」について、共通の意見が挙げられた。以下の通りまとめる。

<b>成長要因</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・学びを社会で活かす機会</li><li>・学びの追求</li><li>・基礎能力を高める授業</li><li>・失敗した体験</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>: 企業との共同プロジェクト、実習体験</li><li>: 卒論の制作、入学目的（学びたいこと）の達成</li><li>: ロジカルシンキングを高める、イノベーションを学ぶ、DS学科「未来創造PJ」等日々の学科の授業を通じた成長 →社会に出て、身になっている、役に立っていることを実感</li><li>: 失敗や挫折した経験をばねに（志望校不合格による不本意入学、インターンに落ちた悔しさ）</li></ul>
<b>進路選択・就職活動</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・早期からの行動</li><li>・学内資源の活用</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>: 計画的かつ余裕を持った就職活動（早期から始めるメリットを理解する）</li><li>: キャリアセンター活用 →キャリアアドバイザー相談、ES添削、面接対策等</li><li>: 学科教員活用 →教員の人脈による企業との縁、教員へ気軽に相談</li></ul>
<b>大学への満足度要因</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・学び</li><li>・環境</li><li>・機会</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>: 学びたいと思っていたことが学べたこと、入学の目的が叶ったこと</li><li>: 良い先生や友人とともに学生生活を送ることができたこと</li><li>: 大学から提供される様々な機会を活用して経験・成長できたこと</li></ul>
<b>大学への要望</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・情報発信</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>: 成長できるプログラムが提供されているのに学生が気づけていない</li></ul>